

呼吸器内科・アレルギー科の先生が着任されました

皆様、こんにちは。診療部長の伊佐田です。
 地域に根差した診療に従事したいとの希望があり、当院の理念にも興味を持ったことから、縁あって4月に着任することになりました。
 札幌出身で、2000年に旭川医科大学を卒業。卒後は北大第一内科に入局し、呼吸器疾患を中心とする診療をしてきました。当時の第一内科では「全身を診ることができる臨床医になるように」という研修の方針もあり、急性期から慢性期疾患まで呼吸器に限らず内科疾患全般の研修診療を続けてきました。

診療部長 着任挨拶

「当事者意識を持ちながら、地域医療に貢献できれば」
 診療部長に着任された伊佐田先生から着任挨拶と専門分野の病気についてお話をいただきました。

出身は札幌ですが生まれも育ちも山鼻で、実家も土田病院のすぐそばでした。なので、子供の頃は病院の周りで遊んだり、買い物をしたりしていました。それから数十年経過し、お店が変わりマンションが増え、子供のころとはずいぶん変わってしまった印象があります。しかし、病院の窓から見える藻岩山や、聞こえてくる市電の走る音というのは昔からずっと変わらないもので、懐かしさとともに安心感すら覚えます。
 このように当院がまさに出身地なので、この地域のことにはよく知っていますし、それ故に常に当事者意識を持ちながら、地域医療に貢献できればと思っています。当院は、外来から入院、救急から療養まであらゆる場面で対応できる体制をとっていますので、いつでもどんなときでも皆様の「かかりつけ医」として、診療に携わっていく所存でございます。



診療部長 伊佐田 朗



ホシガラス 西岡公園(10月)

ホシガラス、星を散りばめたような模様がロマンチックです。が、やはりカラスの仲間、しわがれだ声で「ガーガー」と鳴きます。高山に棲みハイマツの実を好んで食べるので、英名はNutcrakerナッツを砕く鳥です。秋になると標高の低い所にやってきて、せっせと実を運び貯食します。残雪のある頃から巣作りを始め、外敵が動き出す前に貯め込んだ実で雛を育てあげるので、なんと計画性に富んだDNAなのでしょう。

撮影と文 吉本 はるみ(職員家族)

本院理念 地域の安心を第一に考えた病院づくりを目指しています。

1. 地域のみならず信頼され、地域社会に貢献できる医療機関を目指します。
2. 救急医療から慢性期医療に至るまで、質の良い専門医療を実践します。
3. 患者さん、ご家族、そして共に働く職員の気持ちに寄り添います。

私の専門は、呼吸器内科と申しましたが、専門領域として気管支喘息の診療を主に行っていました。近年はアレルギー疾患の増加もあり、気管支喘息の患者さんが増えています。気管支喘息については、薬剤の進歩もあり、治療方法にも選択肢がひろがることで、症状を抑え、より良い生活を送ることが可能になってきています。また、気管支喘息と言われている方も、実は喫煙が主な原因となりうるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気だったということもよく経験しました。このように診断を見直すことで治療方針の再検討につながることもあります。コロナの時代、咳や痰といった呼吸器症状が気になる方は、一度受診をお勧めします。咳や痰といった呼吸器症状が気になる方は、一度受診をお勧めします。診察、検査の結果に基づき、治療の導入や変更、必要に応じて専門病院と連携をとりながらより良い治療が受けられるよう、皆様と共に考えていければと思っています。

木野靖史先生は、呼吸器内科と申しましたが、専門領域として気管支喘息の診療を主に行っていました。近年はアレルギー疾患の増加もあり、気管支喘息の患者さんが増えています。気管支喘息については、薬剤の進歩もあり、治療方法にも選択肢がひろがることで、症状を抑え、より良い生活を送ることが可能になってきています。また、気管支喘息と言われている方も、実は喫煙が主な原因となりうるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気だったということもよく経験しました。このように診断を見直すことで治療方針の再検討につながることもあります。コロナの時代、咳や痰といった呼吸器症状が気になる方は、一度受診をお勧めします。咳や痰といった呼吸器症状が気になる方は、一度受診をお勧めします。診察、検査の結果に基づき、治療の導入や変更、必要に応じて専門病院と連携をとりながらより良い治療が受けられるよう、皆様と共に考えていければと思っています。

地域医療連携センター
 相談受付時間 / 9:00~17:00まで(月~金)
 専任の医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)がおり、入院前および入院中における様々な調整や心配事などのご相談に応じます。お気軽にご来室ください。
 ■地域連携
 他の医療機関ならびに区役所、各関係施設などとの連携窓口となり、入院のご相談から様々な情報連絡、各種手続きなどをおこないます。
 ■医療相談
 経済的な問題から各種制度説明、介護保険のサービス紹介や福祉施設紹介など、お悩みに応じている問題に対して、幅広くご相談をお受けいたします。また、お電話でもご相談も構いません。

医療法人社団 **土田病院**
 Tsuchida Hospital
 札幌市1次・2次救急指定病院
 TEL:011-531-7013
 〒064-0921 札幌市中央区南21条9丁目2-11
 E-mail / info@tsuchida.or.jp
 URL / http://www.tsuchida.or.jp

診療科目
 外科・内科・消化器外科・消化器内科・救急科・整形外科・循環器内科・肛門外科・リハビリテーション科・放射線科・呼吸器内科・アレルギー科

病床数
 一般病床 / 42床、療養病床 / 52床、地域包括ケア病床 / 40床

外来診療時間 [平日] 9:00~12:00・13:00~17:00

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|------|---------------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 午前 | 9:00~12:00 | 9:00~12:00 | 9:00~12:00 | 9:00~12:00 | 9:00~12:00 |
| 午後 | 13:00~17:00 | 13:00~17:00 | 13:00~17:00 | 13:00~17:00 | 13:00~17:00 |
| 外来診療 | 循環器内科 専門外来 | 整形外科 専門外来 | 整形外科 専門外来 | 整形外科 専門外来 | 循環器内科 専門外来 |

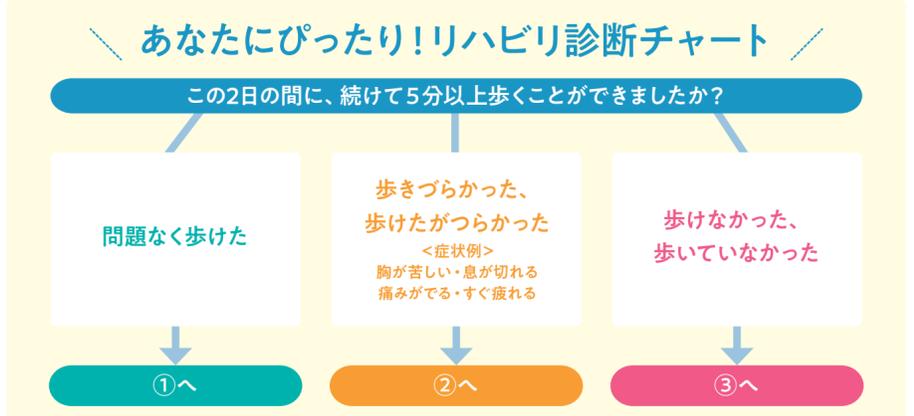
土曜・日曜・祝日は休診いたします。

Voice 「新型コロナウイルスに負けない新しい生活習慣を」

土田病院リハビリテーション科 科長として勤務させて頂いている木野靖史と申します。リハビリテーションの語源は「re(再び)habit(習慣)」(習慣)が合わさったものであり、「ケガや病気で失った習慣的な生活様式を再び取り戻す、もしくは再構築する」といった意味であり、我々リハビリテーション科スタッフは、土田病院の入院患者さんに対して運動療法を用いて、身体を再び作り直す、また普段の生活で行う生活動作の質を高めることで、患者さんの生活様式を作り直すことに従事しております。

しかし、個人のケガや病気でなく、今回まん延している新型コロナウイルスの流行による環境の劇的な変化により、生活様式を変えざるを得ないことが起こります。特に今回の新型コロナウイルスについては、行動範囲や行動内容が大きく制限してしまつたため、それによって体が弱くなる、精神が不健康になるといった負の影響が数多く報告されております。

外出できない時に体力を落とさないためのリハビリ
 体力維持のためのリハビリ方法を今号と12月号の2号にわたってお届けします。診断チャートを活用し、あなたにあったリハビリ方法で楽しく取り組んでみましょう。



① 5分以上歩ける方へ

- 転ばないように気をつけて歩いてください。
- 歩くことが急になつたら早く診てもらいましょう。
- 体力を落とさないよう、定期的に運動、体操をしましょう(図1)。

(各運動10回×3セット(1日2~3回))



② 歩くのがつらい方へ

- じっとしていると体力が落ちます。症状(つらさ)がひどくならないように、少しでも歩いたり、体を動かしたりしましょう。
- つらくなったら休みましょう
- 歩いている時に症状(つらさ)がひどくなつたら、なるべく早く診てもらいましょう。
- 症状(つらさ)が減ってきたら、診断チャートに戻って再確認します。

③以降の内容は12月号にて記載予定です。

この内容は、ご自分で歩ける方や、座ってられる方々ご自身が、自分の体力を落とさないようにすることを第一の目的に考えて作成しています。ご利用者の責任のもと、体調に合わせ無理のない範囲で行ってください。(この内容は、8月号と12月号に分けて掲載します)

(お問い合わせ) E-Mail : jpta@japanpt.or.jp もしくは土田病院リハビリテーション科 木野まで
 作成元 : 公益社団法人日本理学療法士協会